全東京写真連盟 撮影会写真コンクール

入賞作品集



審査対象 国営昭和記念公園モデル撮影会

撮影日 2023年09月24日

審査日 2023年11月03日

審查員:HARUKI先生



金賞 「森の魔法に包まれて」 佐藤 和明 様 モデル 髙畠 祈莉

審查員:HARUKI先生 講評

F値を解放から少しだけ絞っての選択が背景のボケとフォーカスが合っている部分とのバランス良い表現となっています。彼女は何度も入賞作品に登場されている素敵なモデルさんですが、これまでたくさんの作品を拝見し、そしてまた選出させて頂いた作品の中の多くは透明感や少女性を感じるものでした。しかしこの写真には良い意味で今までとは少し違っていて、"オトナノオンナ的"な彼女の脱少女な側面を見出している気がします。それは森の魔法の仕業なのでしょうか?(笑)



銀賞 「木もれ日」 小倉 良二 様 モデル 華陽

審查員:HARUKI先生 講評

切れ長の焦点が読めない流し目と半開きの唇が生み出した虚ろな表情に色香を感じずにいられない大人の女性ですね!!白いブラウスがレフ板代わりとなって下からの光線が顔を優しく照らして魅力的にしています。キンセンカのような小柄なオレンジの花柄スカートが背景の植物と溶け込んでまた良いですね。惜しむらくは左腕にせっかく素敵な木漏れ日が射し込んでいるのに途中でカットされていることです。ズームレンズをご使用されているのならこれは防げたフレーミングミスでした。あとからトリミングは可能ですがその逆は出来ませんのでご注意ください口



銅賞 「秋日和の小径」 湯原 章綱 様 モデル アビラ 凜

審查員:HARUKI先生 講評

「秋日和の小径」という古風なタイトルと同じく、アルバムの中の昔日の思い出のような写真。それもそのはず、本作品はフィルムカメラとネガカラーによる銀塩写真。しかも50mm 標準レンズを絞り開放F1.8 というアルバムに貼られるべきコンプリートなまでのオーソドックスな組合せから生まれた作品でした。この数年はオールドレンズや銀塩カメラブームの昨今ですが、その中からホッとさせてくれる写真やドキッとする写真を輩出してくれます。ところで「彼女は何故こんな所にしゃがみ込んでいるのかな?」なんて考えてはなりません(笑)



入選 「The Perfect Lover」 門間 正之 様 モデル 美冬



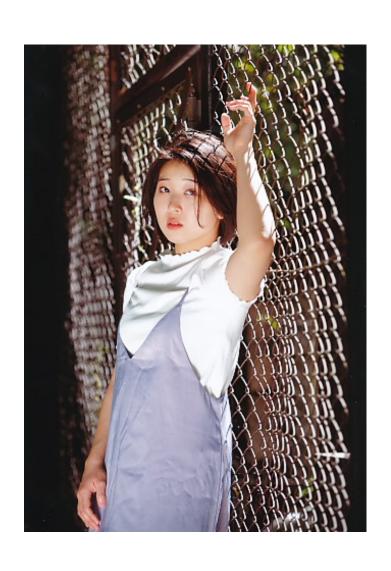
入選 「振り向いて」 小幡 大輔 様 モデル アビラ 凜



入選 「プロフィール」 内藤 勝之 様 モデル 髙畠 祈莉



入選 「そよ風」 小野寺 基之 様 モデル 華陽



入選 「境界」 岸野 孝博 様 モデル 華陽



佳作 「光の中で」 堤 博史 様 モデル 鈴木 さくら



佳作 「日傘の女」 荒井 秀雄 様 モデル 鈴木 さくら



佳作 「見上げて」 中山 静男 様 モデル 大橋 めりさ



佳作 「ポーヅを取る」 米沢 健二 様 モデル 美冬



佳作 「朽ちゆくもの、輝くもの」 寺島 弘行 様 モデル 詩音



佳作 「差し込む光」 田沼 靖信 様 モデル 髙畠 祈莉



佳作 「ひょっこり」 鵜飼 典彦 様 モデル 詩音



佳作 「澄んだ瞳」 金澤 義夫 様 モデル 髙畠 祈莉



佳作 「大樹を背に」 逢坂 誠俊 様 モデル 華陽



佳作 「白いハットがステキな女性」 巻ロ 敏也 様 モデル 髙畠 祈莉



次点 「大きな楡の木の下で」 深野 武雄 様 モデル 華陽



次点 「見つめて」 谷川 朗 様 モデル 髙畠 祈莉



次点 「想い」 河村 徳助 様 モデル 髙畠 祈莉



次点 「ときめかす」 山田 栄一 様 モデル 美冬



次点 「休日午後の唄歌い」 髙橋 壯太 様 モデル 鈴木 さくら



次点 「ポーズがグッド」 斎藤 貴生 様 モデル 髙畠 祈莉



次点 「夏の日に」 片桐 研一 様 モデル 髙畠 祈莉



次点 「無題」 伊能 信一郎 様 モデル 大橋 めりさ



次点 「君といる時間」 星野 祐一 様 モデル 鈴木 さくら



次点 「えくぼ出現」 米村 充男 様 モデル 華陽

【F値の選択】

撮影時のカメラ設定は人それぞれですし、使用するカメラやレンズなど機材選択の他にISO 感度、絞り、シャッター速度、ホワイトバランス、撮影内容な状況、好みや意図によっても変わるかと思います。すべての要素が必要不可欠な要不可欠なすし、それらが掛け合わさって生まれてくる仕上がりにも影響します。ベステランと思います。ポートレート撮影会ということもあって70-200mm ズームレンズでかり開放値で撮影をされる方が多いですが人と違う写真を目指すのですが人と違う写真を目指すのでれば、それは王道の撮影法の一つとして良いのですが人と違う写真を目指すのでればかりですが、そればかりですが、そればかりですがでしたい気持ちはわかりますが、そればかりででありたけても関係なくなりその場所ならではの特徴や良さを生かせないのですが同時に少し絞ったカットも撮ってみることも楽しさや表現の領域が広がるかと思いますよ☆

HARUK I